別添1

宇部市･山陽小野田市広域消防運営計画（原案）に対する意見と対応

<table>
<tr><th>頁</th><th>項　目</th><th>意　見･修　正　案</th><th>事務局対応</th></tr>
<tr><td>全体</td><td></td><td>宇部･山陽小野田消防組合規約（案）は、運営計画とは別という考え方で良いのですか。</td><td>別と考えてください。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>(3) 消防用車両の状況</td><td>整備指針数より現有車両数が少ない車両があるので、車両が充足していないように見える。現有数に書き加えた方が良い。

【変更後】

（台）
<table>
<tr><th>車両 / 消防本部</th><th>消防ポンプ自動車</th><th>はしご自動車</th><th>化学消防ポンプ自動車</th><th>救助工作車</th><th>救急自動車</th></tr>
<tr><td>宇部市</td><td>10</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td><td>6</td></tr>
<tr><td>山陽小野田市</td><td>6</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>16</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>10</td></tr>
</table>
※消防力の整備指針に定める車両の充足率は100％である。</td><td>車両の整備指針数に対する充足率は、乗り換え運用をすることにより 100％となるので、表中の整備指針数を削除し、充足率が100％であることを付記する。</td></tr>
<tr><td>6</td><td>3　消防を取り巻く状況
(2)財政運営状況
２行目から４行目</td><td>（表現の修正）
「････、宇部市は、････ともほぼ一定である。
山陽小野田市は、････減少傾向にあるものの、割合は 4％前後で推移している。」とあるが、的確な表現となっていないし、一方だけに具体的な数値が上がっている。
下記のよう修正しては。

「････、宇部市は、常備･非常備消防費の額はやや増加傾向にあるが、割合（市総決算額に対する常備･非常備消防費決算額の割合）は 3.3％でほぼ一定である。
山陽小野田市は、常備･非常備消防費の額はやや減少しているが、割合は4％前後で推移している。」</td><td>指摘どおりに修正する。</td></tr>
</table>

１１	第２章 消防広域化の効果 3　消防体制の基盤の強化 １行目	新通信指令システムは26年４月運用開始ですが、24年４月広域化から２年後になります。 この間は、現行の２センターで通報を受けることになっており、当該運営計画は通信１センターをベースに描いてあります。26年４月までの過渡期の２年間も２センター間が、１センターとして機能されること（どのようにして)、「第２章消防広域化の効果」１.市民サービスの向上に記述されている内容がそのままメリットとし即市民が享受できることがどこかに明記できると納得性が高く、時差を感じない内容になると思います。 Ｐ１３(4)指令センターの編にでも。 【変更後】 (4)　指令センター 指令センターは、「広域化後も当分の間は、現行の２指令センター（宇部市及び山陽小野田市）で運用し、」広域化後に整備する通信指令センターの運用開始にあわせて、現宇部市消防本部に高機能指令センターを統一する。**また、同センターに統一するまでの間は、２指令センターをホットラインで繋ぎ、一つのセンターとして運用できる体制を構築する。**	第２章消防広域化の効果は、効果のイメージなので、具体的方策は、Ｐ１３(4)指令センターの項に追記する。
		（１行目　表現の修正及び統一） 「財政規模の拡大に伴う高度な資機材の計画的な整備」とあるが、財政規模の拡大(スケールメリット)により、計画的な整備が可能なのか。 下記のよう修正しては。 **「高度な資機材の計画的かつ効率的な整備」**	指摘どおりに修正する。
		（２～３行目　表現の修正及び統一） 「特殊消防資機材の重複投資が防止され、・・・・に結びつく。特に・・・・システムにおいては大きな経費削減が期待できる。」 下記のよう修正しては。 「特殊消防資機材の重複投資が**避けられ**、高度な資機材の計画的かつ効率的な整備が**可能となる**。特に消防救急無線デジタル化と高機能通信指令システム**の整備には大きな経費削減効果が**期待できる。」	指摘どおりに修正する。

	4　効果のまとめ	（表現の修正及び統一） 「‥‥。さらに、消防救急無線デジタル化、‥‥経費削減が期待できる。」 下記のよう修正しては。 「‥‥。**また、高度な資機材の計画的かつ効果的な整備が可能となる。**特に、消防救急無線デジタル化、高機能通信指令システムの整備には**大きな経費削減効果**が期待できる。」	指摘どおりに修正する。
		上記　3 消防体制の基盤の強化 の後段もしくは、4 効果のまとめ の余白に、デジタル化と通信指令システム整備に関する単独整備と一部事務組合化による統合整備の大まかなコスト比較資料の掲載	統合整備することによる経費削減効果は確かにあるが、アプローチ回線の方式も検討中であり、今後実施する実施設計によらないと統合整備の金額は算出できない。
１２	1　基本的事項 (2)広域化開始のｽｹｼﾞｭｰﾙ	（表現の修正） 「‥‥のデジタル化整備において、財政上のスケールメリットを生かし、円滑な‥‥。」とあるが、前の指摘と同様に、スケールメリットがあるからデジタル化できるのか。 下記のように修正しては。 「、消防救急無線の**デジタル化など高度な資機材の整備において、計画的かつ効率的な**事業推進を行うため「平成２４年(2012年) ４月１日」とする。」	指摘どおりに修正する。
１５	3　人事、処遇 (1)定員配置	配置表について、わかりやすくするとよい。（特に定員の表記方法）	指摘どおりに修正する。（別紙１）
		各消防署の定員は、管轄面積、管轄人口、過去の出動回数等によって、バランスをとっているのか。	署所の出動状況を考慮するとともに出動部隊の運用を宇部市に統一し、配置人員を定めている。

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td>現場の定員を増やせば機材（消防車等）を補充しなくても良いのか。</td><td>車両は、整備指針の基準 100％となっており支障なし。</td></tr>
<tr><td>埴生出張所の定員配置は、他の出張所と比較すると、十分とは言えないと思います。そのため、同出張所の職員を他の出張所と同数となるよう増員して、消防体制がさらに充実することを強く要望します。</td><td>小野田署から 2 人異動し、13 人とする。</td></tr>
<tr><td>職員数は、平成 22 年 4 月 1 日現在の実員「298 人」とする。とありますが、3 頁の(2)消防職員の状況（平成 23 年 4 月 1 日現在）では、定員 304 人実員 295 人となっており、定員を下回っているが、直近の実員を上回っているところから、「職員数は、署･所の適正職員数を勘案し、平成 22 年(2010 年) 4 月 1 日現在の実員「298 人」とする。」などの表現にした方が現況との差異に違和感が生じないのではないかと思います。</td><td>指摘どおりに修正する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">１６</td><td>(3)身分(任用、階級等)</td><td>【類似消防本部の階級別構成比】表
最下欄に当消防本部の(定員２９８人)の場合の各人数を書き加えた方がわかりやすい。
【変更後】
【類似消防本部の階級別構成比（職員数250人～350人の16消防本部】
<table>
<tr><th>階　級</th><th>消防監以上</th><th>消防司令長</th><th>消防司令</th><th>消防司令補</th><th>消防士長以下</th></tr>
<tr><td>構成比(%)</td><td>1.8</td><td>4.4</td><td>12.8</td><td>26.9</td><td>54.1</td></tr>
</table>
H23.4.1現在
【上記構成比による当消防局（298人）階級別職員数】
<table>
<tr><th>階　級</th><th>消防監以上</th><th>消防司令長</th><th>消防司令</th><th>消防司令補</th><th>消防士長以下</th></tr>
<tr><td>職員数(人)</td><td>5</td><td>13</td><td>38</td><td>80</td><td>162</td></tr>
</table></td><td>指摘どおり追加する。</td></tr>
<tr><td>(5)福利厚生</td><td>（表現の修正）
「職員共済会は、････。」　→　「職員の互助制度は、「新たな共済会を設置する。」」</td><td>指摘どおりに修正する。</td></tr>
<tr><td>１７</td><td>4　施設整備
(1)消防施設等整備計画</td><td>【両市の整備課題】表中
宇部市の中に、楠出張所建替事業とあるが、協議会で示された素案では「楠出張所用地測量等」となっています。
現在の表現は、建替をすると考えがちになるが、壊して建替えるのでしょうか。</td><td>「楠出張所建替事業」は、「楠出張所建設事業」に修正する。
なお、楠出張所建設についての概要は決定していません。</td></tr>
</table>

２１	医療機関との連携	関係機関（県、市、消防及び医療機関）・・具体的な関係者で今後協議する場合には、医師会、山大ＡＭＥＣの機関が入っての地域医療体制のあり方になりますので、（　）内に両機関を挿入すればすべての関係者になり、共同推進者の範囲がより明確に捉えられると思います。 さらに、協議の場の推進事務局が両市健康福祉部と明記されれば推進責任が明瞭になり、スピード感も期待でき、組織づくりも明確になっていくと考えます。 【変更後】Ｐ２１　９～１１行 ゴシック体の部分 「救急搬送体制の強化及び円滑化を図り、さらなる市民サービス向上を推進するため、**両市健康福祉部を中心に、消防及び医療機関（山口大学附属病院、両市の救急告示病院及び医師会）が**協議する場を設け、連携体制を構築する。」	指摘された意見を考慮し、修正する。

【㈱ぎょうせいからの指摘】

頁	項　　目	指　　摘　　事　　項	事務局対応
	フォント	「はじめに」と「目次」は丸ゴシックだが、本文は明朝となっている。	明朝に統一する。
	年号標記	和暦と西暦の標記が不統一 本文：和暦のみ。和暦・西暦併記。 表中：平成○○年、H○○が混在	本文は、和暦と西暦の併記に統一する。 表に係る表記は、和暦の略（平成○年○月○日⇒H○. ○. ○）に統一する。
	「住民」と「市民」	「住民」と「市民」の両方が使用されている。	次の様に使い分ける。 ・国等が消防広域化を説明する場合に、広く国民を指す場合は、「住民」を使用する。 ・宇部市及び山陽小野田市の市民を指す場合は、「市民」を使用する。
	「両市」と「２市」	「両市」と「２市」の両方が使用されている。	「両市」に統一する。